

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 25 人

② 算数 25 人

5 留意事項

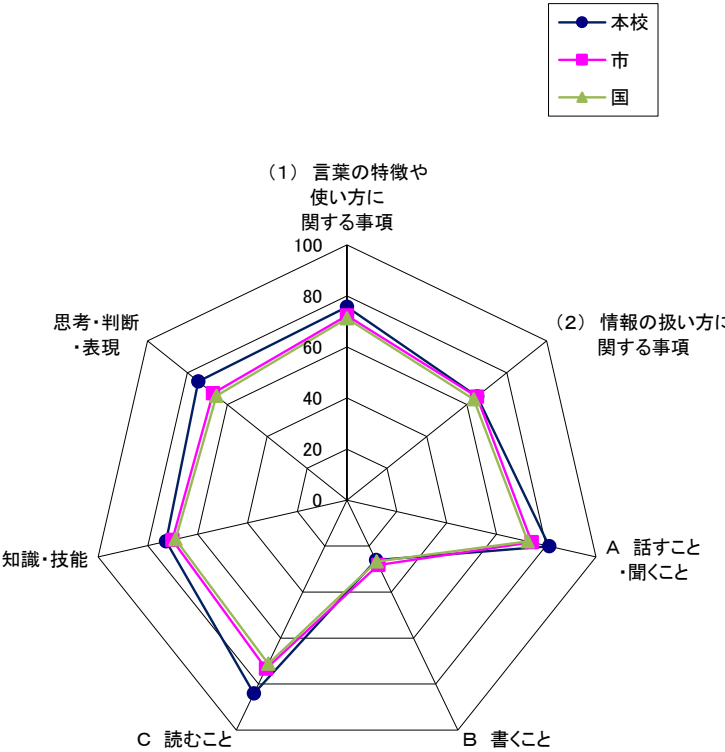
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	75.7	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	65.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	81.2	74.2	72.6
	B 書くこと	26.1	28.2	26.7
	C 読むこと	84.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	72.7	70.2	68.9
	思考・判断・表現	74.5	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

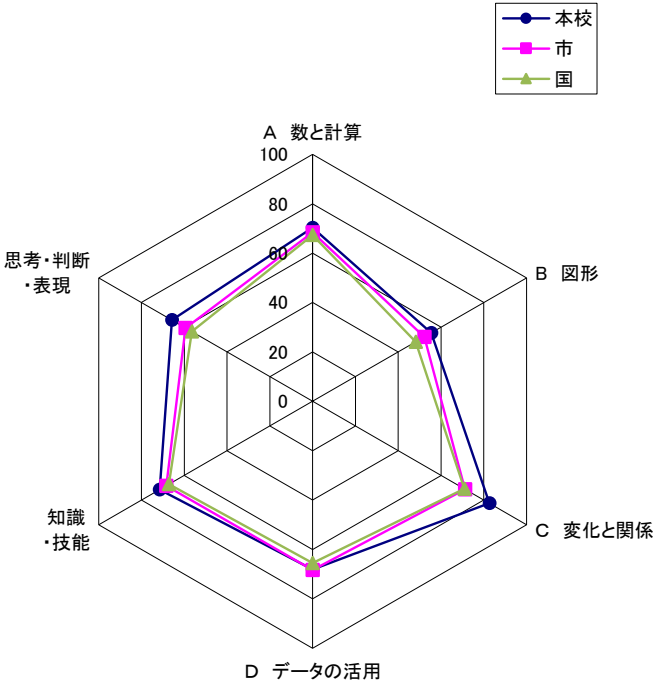
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、75.7%であり、全国の平均を4.5ポイント上回っている。 ○日常よく使われる敬語を理解しているかの問題では、全国の平均を、7.6ポイント上回っている。 ●漢字を書く問題では、県や全国の平均を上回っているが、無回答率が13%の問題もある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も漢字学習の充実を図っていく。一行練習などの繰り返し練習だけでなく、覚えていない漢字を洗い出し、その漢字を練習したり、様々な熟語を練習して、文章の中で適切に使えるような力を養っていったりするなど、漢字学習の方法も含めて児童に指導していく。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、65.2%であり、全国の平均を1.8ポイント上回っている。 ○原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる問題では、全国の平均を4.9ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では、全国の平均を1.1ポイント下回っている。	・資料の中から情報を正しく読み取るために、結果や原因に着目することを指導していく。 ・長い文章や資料に対して、キーワードとなる言葉を囲んだり、線で繋いだりするなど、情報を整理する方法を指導していく。間違ったときにもきれいに消すことができるタブレット端末を使って指導すると、より頭の中で整理することができる可能性もある。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、81.2%であり、全国の平均を8.6ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、全国の平均を3.7ポイント上回っている。また、無回答率は4.3%だった。	・今後も、国語の学習や学級活動の中でインタビューを行い、インタビューの仕方を学んだり、適切な質問の内容の取捨選択ができるように指導していく。 ・インタビューで分かったことをまとめる際、問題の条件に合うように自分で言葉を選んで書くことができるようにしていく。また、原稿用紙の使い方も併せて指導する。
B 書くこと	平均正答率は26.1%であり、全国の平均を0.6ポイント下回っている。 ●図表やグラフから読み取ったことを基に、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問において、課題が見られた。	・自分の考えを書くということに慣れさせることから始めていきたい。例えば、学校行事等を通して感じたこと、考えたことを自分の言葉で書き表せるようにしていく。次に、図表やグラフから読み取ったことを基に自分の考えを書けるように、授業でも取り入れるようにしていく。さらに、字数制限を設けたり、事実と意見を区別して書いたりするなど、条件を設定して書くことで、書き表し方を工夫できるようにしていく。
C 読むこと	平均正答率は84.1%であり、全国の平均を12.9ポイント上回っている。 ○目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約したり、必要な情報を見付けたりする設問では、いずれも全国の平均を上回った。	・目的を意識して中心となる語や文を見付けてしたり、必要な情報を見付けたりするなど、読み取る力が身に付いてきている。 今後も、説明文等の授業では、筆者の主張したいこと、そして主張したいことを伝えるために取り上げた事例の選択、事例の順序等に気を付けて読むために、具体と抽象に注意して読む学習を推進し、読み取る力をさらに身に付けさせていきたい。

宇都宮市立東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.3	68.4	67.3
	B 図形	55.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	82.6	71.2	70.9
	D データの活用	68.1	68.3	65.5
観点	知識・技能	71.5	68.4	67.2
	思考・判断・表現	65.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、70.3%であり、全国の平均を3ポイント上回っている。 ○2位数÷1位数の筆算の仕方を説明した図を基に、商の意味を考えることができるかどうかをみる設問では、全国平均を2.1ポイント上回っている。 ●示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題では、全国平均を4.5ポイント下回った。	・基本的な計算のさらなる定着に向けて、教科書の練習問題やAIDリルを活用して練習問題に繰り返し取り組ませる。 ・授業において、自分の考えをノートに記述させるなどして、考えや解法を記述して説明する力を育みたい。
B 図形	平均正答率は55.4%であり、全国の平均を7.2ポイント上回っている。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる問題では、全国平均を18.3ポイント上回っている。 ●正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題では、全国平均を3.2ポイント下回っている。	・図形を構成する要素に着目し、それぞれの図形の定義を確認する。 ・具体物の操作やプログラミング学習を取り入れ、正三角形の意味や性質、構成についての理解を深める。
C 変化と関係	変化と関係の領域の問題は、全て全国平均を上回っている。領域全体の平均正答率は82.6%であり、全国の平均を11.7ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述するかどうかをみる問題では、全国の平均を22.8%上回っている。 ○百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題では、全国の平均を19.2%上回っている。	・今後も、日常生活と結び付けて比例の関係を捉えたり、生活の中で割合を活用したりできるように、身近な事象と関連付けて考える課題を設定し、応用力を養っていくことに努める。
D データの活用	平均正答率は68.1%であり、全国の平均を2.6ポイント上回っている。 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができかどうかをみる問題では、全国平均を5ポイント上回っている。 ●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができかどうかをみる問題では、全国平均を1.8ポイント下回っている。	・「以上・以下・未満」が表す意味を再度確かめる。 ・表やグラフから必要な情報を読み取ることは概ねできている。身の回りの事象について興味・関心を持ち、データを収集、表やグラフに整理し、その特徴をまとめたり、話し合わせたりできるような場を設定していきたい。また、データの活用の指導にあたっては、一人一台端末を積極的に活用する。

宇都宮市立東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定割合が92.3%で全国平均を10.7ポイント上回っている。担任や学校全体が児童一人一人にきちんと向き合っていることがこの結果につながったと考えられる。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人いつでも相談できますか」では、肯定割合は80.8%で、全国平均を11.5ポイント上回っている。教師と児童の信頼関係を築くために学校全体で親身になって児童と関わっていることが安心して相談できる環境を作り出していると考えられる。

○「学校に行くのは楽しいですか」では、肯定割合は96.1%で、全国平均を10.8ポイント上回っている。学級全体の雰囲気や友達との信頼関係が良好であることが伺え、学習の中でのコミュニケーションでも生かされていることが分かる。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」では、肯定割合は96.2%で、全国平均を11.7ポイント上回っている。文章を読み解く力や話す力、聞く力がこれからの生活で必要だと自分自身で理解できていることから、学習に対する意欲が高く、課題に対して粘り強く取り組もうとする児童が多いことが伺える。

○「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」では、肯定的回答が96.1%で全国平均81.9を14.2ポイント上回っている。子供たちが授業で学んだことを他の教科にも生かせていると感じていることは、教える側としては大変喜ばしいことであり、そう考えている子供たちの期待にさらに応えられるよう、教師も子供たちの学びについて更に大切に考えていきたい。

○「英語は好きですか」の肯定的な回答は100%で、全国平均の69.3%を30.7ポイント上回っている。英語の時間の学習が楽しいという児童の考えがはっきりと見て取れる。ALTが楽しく学ばせてくれていることや、担任とALTがしっかりと連携して授業を構築していくことによって、子供たちの興味・感心・意欲を高めている現在の好ましい様子が伺える。

●「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では、1と2の肯定的回答は90%で全国平均とほぼ同率だが、1を選んだ児童は30.8%で全国平均の55.1%を24.3ポイント下回っている。そういう点では、生活のリズムは少し乱れており、折に触れて生活指導をしていく。

●「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」では、肯定的回答は65.4%で全国平均74.4%から9.0ポイント下回っていた。自分の考えをまとめるという活動は子供たちの苦手な活動であることから、肯定的な解答が低くなってしまうことも理由として考えられるが、子供たちから出た苦手意識として受け止め、今後の指導に取り入れていく。

宇都宮市立東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的に取り組む、共に学び、楽しく分かる授業づくり ②対話的で深い学びを通して思考・判断・表現力を伸ばす指導の工夫 ③基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着	①ICT（一人一台端末）の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫 ③学業指導の充実とAI型学習ドリルの有効活用	・児童質問紙「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の設問について、肯定的回答が96.1%で全国平均81.9を14.2ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」では、肯定的回答は65.4%で全国平均から9.0ポイント下回っており課題が見られた。	・協働的な学びの場の設定の際、ICT機器の活用を意図的に仕組んでいく。	・協働的な学びを推進する際、ペアワークやグループでの話し合いだけでなく、スクールタクトなどのICT機器のアプリを活用し、クラス全員の考えをスピーディに共有し、深い学びにつなげるようにしていきたい。